

RCC FORUM

No. 33



(みずの・りゅういち)

1963年大阪市生まれ。関西学院大学神学部卒業、同大学院神学研究科修了。南メソジスト大学パーキンス神学院修了(M.T.S.)。日本基督教団東梅田教会担任教師、関西学院大学神学部助手、専任講師、助教授を経て、現職(ヘブライ語聖書学)。関西学院大学キリスト教と文化研究センター副長。日本基督教団讃美歌委員会委員(書記)。

著書：『アブラハム物語を読む～文芸批評的アプローチ』(新教出版社、2006年)、「ヨセフ物語(創世記三七～五〇章)」(『新共同訳聖書註解 旧約聖書・旧約聖書統編 I』83～114ページ、日本基督教団出版局、1996年)、「「選民」と暴力～ポーターの内と外」(前島宗甫他編著『暴力を考える～キリスト教の視点から』57～74ページ、関西学院大学出版会、2005年)他。

ヘブライ語聖書は 「平和」について 何を語るか

水野 隆一 氏

(RCCセンター副長、関西学院大学神学部教授)

●日時:2006年11月16日(木)

13:30～15:00

●会場:関西学院大学図書館ホール(地下1階)

—どなたでも聴講できます—

講演内容

キリスト教の立場から「平和」について考えたり、語ったりするとき、「聖書」が「平和」についてどのように語っているかは、常に取り上げられてきました。というのも、聖書はキリスト教の聖典として、教義や倫理について考えるとき、その規範となっているからです。

しかしながら、ヘブライ語聖書(旧約聖書)を丹念に読むとき、そこには現代に生きる私たちの感覚とは異なる意識、倫理観が記されていることに気付きます。「平和」についても例外ではありません。本講演では、ヘブライ語聖書が「平和」についてどのように語っているかを、テキストを読み解きながら、現代の課題として考えてみたいと思います。